

エコニュース さって



第 8 1 号
令和元年 7 月 24 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

第 4 回市民環境講座「ごみを減らそう」及び「海外のエコ事情」

報告 : 澤村

平成 30 年度第 4 回市民環境講座が 3 月 3 日（日）中央公民館にて開催。参加者 16 名。第 1 部は埼玉県環境部主任山本奈美枝氏で「ごみを減らそう」のテーマで、第 2 部は、さって市民環境ネットの宮田のモンゴル視察及び久保田のフランス旅行からの「海外のエコ事情」の講演でした。

山本氏は、大きく 4 項目について内容を Q&A, 幸手市の実情を踏まえながら大変分かり易く話されました。今後のごみ問題を考える上で参考にしたいと感じました。

1 ごみとは何か？

- 1) ごみは人によって違う場合があり、ルールを守って棄てることが大切で、守らないと生活が脅かされたり、生態系に影響がでてくる。
- 2) ごみには一般廃棄物（家庭廃棄物）と事業系廃棄物があり、前者は市町村（自治体）と国民の責務、事業系は事業者の責務であり、皆に責任がある。
- 3) ごみを捨てるルールを確認しよう；幸手市のごみの収集と分別方法、回収頻度・日時を確認しながら話されました。

2 ごみはどこへ行く？

例えば、なまごみは回収して焼却して焼却灰は埋める。PET ボトルは回収して選別・洗浄、細かくして再生（リサイクル）。

3 何故ごみは減らさねばならないか？

埼玉県内のごみを埋められ場所は、年々減っていてあと 32 年で一杯になってしまうので対策を急がねばならない。

4 どうしたらごみは減らせるか？

3R（Reduce：出さない工夫、Reuse：くり返し使う、Recycle：違うものに作り変える）の実践である。

第 2 部「海外のエコ事情」から 諸外国のエコ事情「モンゴル編」

報告 宮田

～モンゴルの晴天率は 300 日以上、年間で零下 40℃～摂氏 40℃～



石炭火力発電所 お湯を市内へ供給

ロシアと中国に挟まれ河川や樹木も少なく土地を所有しない遊牧民の生活が知りたくて訪れたモンゴル、空港のあるウランバートル市はソ連時代の街並みに似ていて、4 つの石炭発電所からはお湯がパイプラインで供給されています。上下水道が整備されていないゲル地区と呼ばれている一角では、遊牧民の伝統的住居である「ゲル」のドアの外で女性が座り込んでバケツで洗濯している姿が。一方、高台では高層マンションが建設ラッシュ中。



モンナラン発電所の太陽光パネル

市内（中心部より北西 39km）に位置する「モンナラン太陽光発電所」は 2017 年 11 月に完成したばかりの 12.7MW の太陽光パネルを有するメガソーラー発電所（約 6,500 世帯分）。農場として活用していた 28ha の敷地にソーラーファームを設置し、農業＋太陽光発電＋CO2 クレジットの事業を実践しています。「2020 年までにモンゴル国全体の発電設備量に占める再生エネルギーの割合を 20～25%とする」という目標はすでに達成済みと説明を受けました。

舗装されていない一本道をマイクロバスが延々西に約 290Km 走る途中、ところどころにゲルが点在、そのうちの一軒を訪問しました。持ち運びソーラーパネルが 2 枚設置され、組み立て撤収が可能なゲルの中は、必要最小限の道具しかありません。必ず必要なのは、中心部に設置されたストーブ。燃料は牛の糞。木組みにぶら下げた羊の生肉にはハエ除けに糞を燻します。

真冬はゲルの下に糞を敷いて断熱材代わりに、家畜とともに暮らす完全循環型の暮らしです。あちらこちらにある糞ですが空気が異常に乾燥しているため、臭いがほとんど気になりません。



遊牧民の伝統的住居「ゲル」



「ゲル」内部のストーブと燃料の牛糞

厳しい環境下で行われるモンゴル国の農業は、自ずと生産時期が限定されてしまいます。ウランバートル市における野菜消費の大半は輸入品ですが、水不足を乗り越えなければ農業の発展は難しいように思いました。

大モンゴル帝国の首都だったチンギスハーンによって 13 世紀に設立されたカラコルムの象徴的な遺跡や 50,000 ㌔のフスタイ国立公園、ウギー湖に沈む夕日に満天の星、朝焼け～日の出にはものすごいエネルギーを感じました。

諸外国のエコ事情「フランス編」**報告 久保田****1. ゴミの収集・分別**

2 種類のゴミ容器が、市から各家庭に配布されます（無料）。黄色い蓋のものには、リサイクルゴミ（段ボール、紙パック、アルミパック、ペットボトル、プラスチックボトル）を入れます。一般ゴミは緑の蓋のものに入れます。ゴミの回収日に当たる曜日には、この車輪のついたゴミ容器を、道路まで出しておきます。ゴミの回収は週1から2回（自治体によって異なる）、トラックが収集に回ります。このゴミ容器は、蓋付きであること、車輪がついていること、市から無料で配布されることなど、日本に比べていいなと思う点です。

黄色の蓋の容器に入れられたリサイクルゴミですが、これはいったん分別所に持って行かれ、そこでリサイクルの用途別に作業員によって分別されます。細かい分別は、家庭内で行わないですみ、煩わしくありません。また、この分別方法は、雇用を増やしていると政府は公言していますが、どうなのでしょう、社会的コストは日本より高くなっているのではないかと思います。

**2 種類のゴミ容器 黄色 (左側) と緑 (右側)****街中のガラス・紙回収ボックス**

街の中にガラス類、紙類の回収ボックスが置いてあり、家庭用のリサイクルゴミ容器に入れられないガラス瓶や、新聞雑誌・広告などの紙類は、そこまで持っていき入れます。

2. スーパーでの計り売り

スーパーマーケットの野菜・果物売り場には、日本のようにパックされた商品はありません。買い手は、買いたいものを買いたい数だけ、自分で選ぶことができます。選んだ品物は、自分で袋詰めして、備え付けの計りにのせ、ディスプレイの表示にしたがって進んでいくと、値段が計算され、バーコードのついたシールが出

てきます。それを切り取り、袋に貼ってレジに持っていきます。これは買い手にとって便利です。必要なものを手に取ってチェックでき、必要な数だけ買えるからです。しかも値付けは、商品の数ではなく、重さ（kg いくらの表示）で計量器が自動で計算してくれます。

出荷する方も手間がかからないと思います。パックするために商品の姿をそろえる必要がないから、例えば曲がったキュウリ、大きさのそろわないものなども売り場に出せます。そして、一律の値付け（kg あたりいくら）ができます。パックのための包装材もありません。日本では、出荷の前の選別、パックのための包装材に手間・費用がかかります。この点で支払われる社会的コストは、フランスの方が少ないと思われます。

レジ袋は大分前から店側で用意しなくなり、買い物客は自分でかごやバックを用意し、売り場には各種のエコバッグが用意されています。また最近では、計り売りで用意される袋も紙製になったり、生分解性プラスチック（土に還るプラスチック）などに変わってきています。



野菜・果物の計り売り

乗り捨て可、GPSを利用したシステムなので、利用者は、近くの空いているキックスケーターが、どこにあるかをスマホの地図上で探せる）。無免許で利用でき、歩道走行禁止、車道走行、ヘルメット利用となっていますが、ヘルメットを被らないで（けっこう多い）、車道を車と併走するのは、見ている方で事故を起こさないかと怖くなります。



最近出現した電動キックスケーター

通・通信の発展でグローバル化が進み科学・技術に裏付けされた同じようなシステムが採用され、画一化される一方、細部ではその国の文化を反映した小さな違いが現れてきます。それが面白い(^_^;)。

3. パリ、電動乗り物のシェアリング

パリでは、排ガス対策・CO2対策のため、さまざまな電動乗り物のシェアリングシステムが試されています。電動シェアバイク（自転車）、電動シェアカー、電動シェアスクーター、電動シェアキックスクーターなど。充電できる駐車（駐輪）スペース（基地）をパリ市内に数多く用意し、利用者は近くの基地から走り出し、行き先の近くの基地で乗り捨てる。料金は、クレジットカードや、スマホのアプリで行う。

電動キックスクーターが、最近現れたもの。基地となる駐車スペースがいらないこと（どこでも

パリ市としては、完全なシステムを（用意周到の上）一般に提供するのではなく、良さそうと思われるシステムをトライアンドエラーをして、改良していくというような姿勢がうかがわれます。システムの運営はすべて私企業、パリ市としては基地となる駐車スペースの用意をするだけと思われま

4. まとめ

国が変われば、システムが変わる。そのシステムは、そこに住む人たちの考え方、古くからの文化、そういったものの反映を受けています。交

【会員募集中！】環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕★問い合わせ先；久保田 修（代表）まで TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園20期）